

令和3年度 北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科

美術文化専攻 自己推薦入試（小論文問題）

注 意 事 項

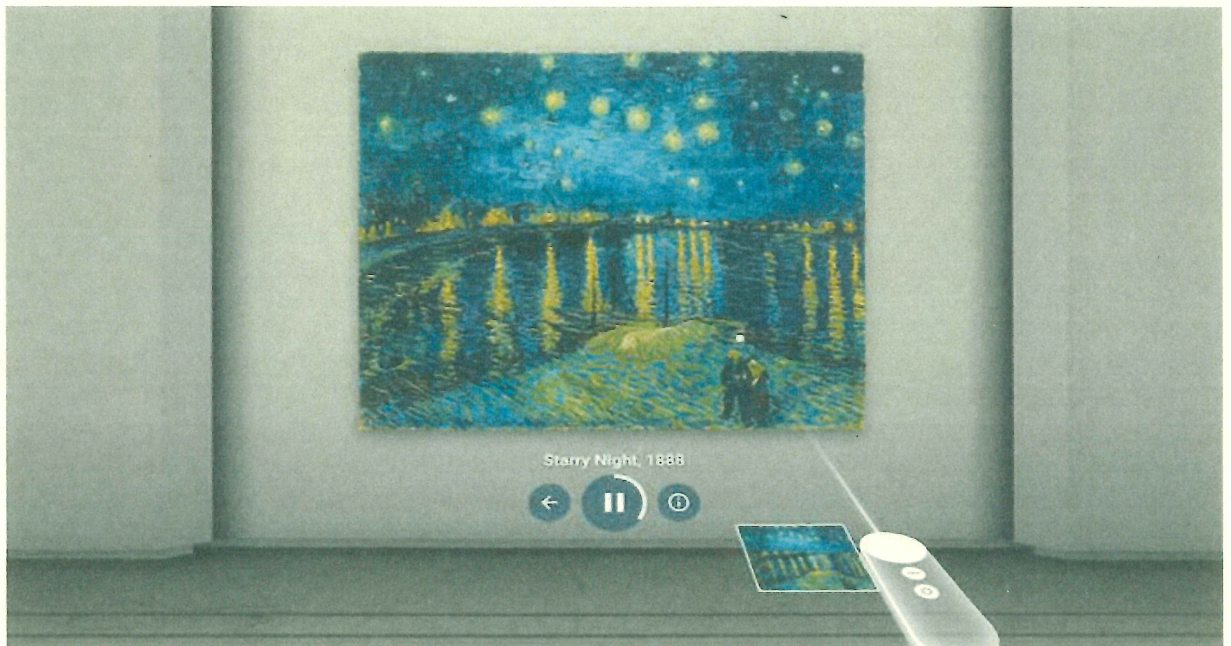
- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子は開かないこと。
- 2 この問題冊子はページ番号1から2までの2ページです。
- 3 解答用紙は、2枚です。  
解答は解答用紙に横書きとし、句読点等も1字分として、指定された字数内にまとめること。ただし、題・氏名は記入しないこと。
- 4 受験番号は解答用紙の指定欄に記入すること。
- 5 下書き用紙は2枚です。表裏とも使用は自由です。
- 6 解答用紙のみを提出し、問題冊子・下書き用紙は、試験終了後持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。
- 7 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

## 【問題】

世界各国の美術館やギャラリーにおいて、独自に提供するオンラインビューイングやバーチャルツアーが注目されている。2016年に書かれた記事を参考に、コロナ禍におけるオンライン美術館について自分の考えをまとめ、1400字以上1600字以内で述べなさい。（600点）

### <Google、VR空間でアート鑑賞できるアプリをリリース>

Googleは、世界中の美術館が所蔵する作品をオンラインで鑑賞できる「Google Arts & Culture」のVRアプリをリリースした。



今回リリースされた「Google Arts & Culture VR」は、ゴッホやレンブラントなど、著名作家の作品を架空のギャラリー空間で鑑賞可能にするもの。ユーザーはGoogleのVRヘッドセットである「Daydream View」を着用することで、作品をズームして画家の描いたストロークまで閲覧できるほか、美術館キュレーターによる音声ガイドも聞くことができるなど、さながら“自分専用美術館”にいるような空間を体験できる。

「Google Arts & Culture」は、世界中の文化遺産をオンラインで紹介することを目的に、「Google Cultural Institute」と連携している1000以上の代表的な美術館やアーカイブのコンテンツをオンライン上で公開しており、今後VRでの公開範囲がどこまで広がるのか期待したい。

出典：美術手帖 NEWS/HEADLINE 2016年11月12日

<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/363/pictures/1> 閲覧日2020年10月25日